

城南家保ニュース Vol.29-2

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



平成29年度 定期種畜検査が実施されます

■5月は県下一円、家畜の交配や人工授精に供する牛や馬、豚の雄畜に対する種畜検査が実施されます。本年は球磨管内は5月25～26日にかけて行われます。

本検査は家畜改良増殖法に基づき行われるもので、繁殖に利用される種雄畜とその精液による**疾病のまん延を防止**し、家畜の**改良増殖を推進**するため、農林水産省、(独)家畜改良センターが中心となり、都道府県が協力して毎年全国で実施しています。

○種畜検査で実施される衛生検査対象疾病

牛：ブルセラ病、結核病、牛カンピロバクター症、トリコモナス病

馬：馬伝染性貧血、馬パラチフス

豚：オーエスキー病、ブルセラ病

全畜種共通：精液性状（量、色、精子の活力、生存率及び奇形率等）

家畜保健衛生所は種畜衛生検査を担当する機関となっており、毎年春になると農家の雌畜との交配に広く利用したり、精液を採取・流通させる**種雄畜を所有している農場を訪問**し、血液や精液の採取・検査、健康状態の確認を実施しています。

農家の皆様は普段、種畜検査を見る機会は無いかと思いますが、このようにして安定した家畜の生産、消費者への畜産物の安定供給ができるよう、私達家保職員も取り組んでいます。



種雄牛(NLBC写真)



種牡馬(NLBC写真)



種雄豚(NLBC写真)

暑熱対策の準備も早めに実施しましょう

5月の大型連休を迎える頃になると、日中の気温もぐんぐん上昇し、25℃以上の夏日・30℃以上の真夏日にも迫ろうかという暖かい日も出てきました。

家畜の生産性が十分発揮できる温度域は約15℃～25℃といわれており、夏日になる時点で家畜にとって実は、生産性を最大限に発揮するには暑すぎるということになるのです。そこで、夏に向け早めに暑熱対策を再確認しておきましょう。



換気ファン送風



細霧ミスト



(写真:宮崎県)

畜舎屋根への石灰塗布



樹木による陽除け



遮光ネット



グリーンカーテン



(写真:愛知県)

クーリングパッド設置



ドリップクーリング (冷水滴下)

ここにお示したのは積極的な環境改善による暑熱対策の手法の中でも、非常に効果が出やすい反面、コスト面や労力面などの問題から、直ぐには取り組めないものも多いですね。

そこで、間接的ではありますが、以下のような飼養管理面での暑熱対策であれば、効果はすぐ見えにくい反面、多大なコストがかからずに取り組める手法といえます。

- 朝、夕の涼しい時間に飼料給与する
- 給与回数を増やし、1回あたりの給与量を減らす
- 豚であれば焼酎粕や飼料米などを一緒にウェットフィーディング
- 暑熱による体内の活性酸素類を低減するビタミンA、D、E（特にビタミンE）の強化及びミネラル（亜鉛Zn、セレンSe）の添加
- 生菌剤（プロバイオティクス）の活用

生菌剤が暑熱対策に効果があるというのは、やや馴染みのないところですが、生菌剤の暑熱ストレスへの効果として、**腸粘膜の保護、消化吸収能の向上**があげられています。暑さで飼料の摂取量も減りますが、そこで少しでも効率よく消化吸収しようという考え方です。

暑熱ストレスによって、腸粘膜表面の絨毛は損傷を受け、消化吸収能力が低下すると報告されています。また、飲水量が増加することで腸管内の酸素が増え、乳酸菌やビフィズス菌などの有用菌（善玉菌）が増殖しにくく、減少しやすい環境になると考えられています。

そこで、生菌剤を給与することで、生菌剤に含まれている乳酸菌が産生する乳酸などの物質による直接的な作用、病原体の増殖定着防止による間接的な作用で、腸粘膜面を保護し消化吸収向上につながる仕組みです。枯草菌の生菌剤は、枯草菌が腸管内の酸素を活発に消費することで、乳酸菌やビフィズス菌が増えやすい環境を作る作用によります。

製品によっては、暑熱期に牛で給与した場合の増体量・飼養要求率の向上が報告されているものもあり、畜種を問わず、季節を問わず実施できる手法といえます。

普段、生菌剤を活用している農場では、**夏季は複数の製剤を併用するのも有効でしょう。**



これなら、すぐにでも 実施できそうですね！

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	中国	3月23日	豚	O型
		4月16日	牛	O型
	モンゴル	2月2日～4月3日	牛	O型
アフリカ豚コレラ	ロシア	3月18日、4月2～3日	豚	
高病原性 鳥インフルエンザ	ロシア	4月12日 4月20日	家禽	H5N6 H5N8
	台湾	3月31日～4月6日	地鶏、がちょう	H5N2
	ベトナム	4月5日～17日	家禽	H5N1

平成29年5月1日時点

編集後記 (M.K)

木々の緑も美しい5月を迎え、風邪など家畜の病気が起こりにくく、採食量・増体が良くなり、動物にとっては良い季節です。かくいう自分も動物のはしくれ、食欲もなにやら旺盛に。体重計に乗るのが怖いですが、脂身でなく筋肉で重くなりたい...

今月書いた生菌剤のお話し、乳酸菌飲料など職場に売りに来ると私もよく飲んでますよ！